

令和 5 年度 県立大子特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	「持続可能で 選ばれる 地域共生型学校」 ・ 持続可能・・・安心で安全な教育環境を保持し、社会環境の変化に応じた教育を提供し続ける学校 ・ 選ばれる・・・地域資源を生かした特色ある教育課程をもち、質が高く魅力のある授業を提供する学校 ・ 地域共生・・・コミュニティスクール制度を生かし、地域づくりと学校づくりの一体的推進に取り組む学校					
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標		達成状況	
1 「学びがい」の推進 (1) 成果 ・ 個別最適な学びのための積極的な ICT 活用 (2) 課題 ・ 学校研究による教科等横断的な学習指導力の向上 2 「働きがい」の推進 (1) 成果 ・ 地域人財との交流や協働機会の増加 (2) 課題 ・ 自立活動の充実に資するキャリアパスポート活用 3 「頼りがい」の推進 (1) 成果 ・ 積極的な情報発信と校内外の教育相談の充実 (2) 課題 ・ 各種危機対応マニュアルの見直しと継続改変 4 「生きがい」の推進 (1) 成果 ・ 外部人財の活用によるスポーツ文化的体験の充実 (2) 課題 ・ 授業や各種行事への保護者・サポーターの協力推進		1 「学びがい」の推進	① 指導の個別化と学習の個性化による個別最適な学びの実現 ② 教職員の専門性向上のための自学共有型研修の充実 ③ 教科等横断的視点による継続的な教育計画の工夫改善			
		2 「働きがい」の推進	① 積極的な地域貢献や奉仕活動等とおした心の教育の充実 ② 自立した生活者として必要な自己管理能力や規範意識の向上 ③ 社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成			
		3 「頼りがい」の推進	① 健康・安全に関する能力及び実践態度を育成する教育の充実 ② 学校の危機対応における体制づくりと環境整備の強化 ③ 地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮			
		4 「生きがい」の推進	① 健康で豊かな生活をおくるための生涯スポーツの享受 ② 生活の質の向上と余暇の充実につながる文化芸術活動の充実 ③ 新しい発想で主体的な PTA 活動の推進による共育風土の醸成			
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策		重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・ 子どもと教職員の生命・健康の保持 ・ 保護者や地域からの信頼確保の継続	・ 健康安全、防災、コンプライアンス等、学校危機に係る事案発生ゼロを校長が宣言し全職員に周知徹底 ・ リスク・クライシスマネジメントの徹底 (各種マニュアルの適宜改変、施設の安全点検と改修、避難訓練、安全教育、職員のコンプライアンス研修ヒヤリハット事例の積み上げ)		1 —① 2 —②・③ 3 —①・② 4 —①		

教職員の 育成及び 指導・監督	・教科等横断的視点での教科学習の教育計画策定力の向上 ・児童生徒の深い学びに資する授業実践力の向上と3観点での評価・改善。	・教務主任が単元配列表を作成、各学習指導担当が運用し、教科間が関連づいた学びに係る力量を向上 ・全教職員が担当教科の指導計画のPDCAを継続し、次年度の年間計画が年度末に完成 ・教育課程検討委員会を主体に、カリマネの進捗状況をPDCAで管理し、計画訪問等の機会に評価改善	1－③ 2－①・③ 3－③ 4－①・②			
対外活動	・学校運営協議会での提案の実現 ・地域・学校双方の協働実績の拡充	・学校運営協議会において作業部会からの具体的な連携・協働案の提示と熟議 ・熟議で具現化された提案内容を、チャレンジ2023との関連を鑑みて実施・評価・改善 ・提案事項を教職員に共有し、各自が教科等横断的に自分の授業に反映	1－②・③ 2－①・③ 3－①・③ 4－③			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		成果(・)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
教務部	企画・文書	教科等横断的な視点による年間単元計画の改善に努め、自然体験学習を中核とした各教科間の関連付けを推進する。	- 学習指導課会において、自然体験活動に関連づいた授業づくりについての進捗状況や課題を共有し、年間単元計画の継続的な見直しを行う。 - 自然体験活動に関連づいた授業の記録を確認し、内容や題材について部主事や学習指導課長と熟議する。	1－③ 2－③			
	教科書・図書	- 児童生徒の実態を踏まえ、適切な教科用図書の採択を行う。 - 誰もが親しみやすく、利用しやすい図書室になるよう掲示物や環境を整える。	- 教科用図書選定委員会等の適切な採択の手順を踏み、係内で分担しながら、次年度の教科用図書採択を行う。 - 児童生徒の読書活動を推進するために、児童生徒の好きな本や季節、行事等の紹介コーナーを設置する。 - 読み聞かせ活動の充実。	1－③ 2－③ 4－②			
	地域連携	- 学校運営協議会委員と積極的に連絡、調整を行い、地域資源を活用した教育実践に努める。 - 校内掲示、インターネット、広報誌、回覧板などを活用し、保護者や地域に本校の教育活動について情報発信を行う。	- 各部等において、地域と連携した教育活動の在り方について検討・企画・運営する。 - 実施が決まった教育実践については、連携団体等と連絡調整を行い、円滑に準備する。 - 大子町役場の総務課と連携し、部だよりを中心として、本校の情報発信を行う。 - 校内掲示や回覧板等で発信する情報を精選したり転用したりし、業務の効率化を図る。	1－③ 2－①			
学びがい推進部	研 修	教職員が自ら学びたいことを探し、選択し受講した研修内容を共有することで、教職の資質向上に努める。	- グーグルカレンダーやスプレッドシート等を用いて、教職員に研修の期日や内容を周知したり、自由に追記して共有したりできるようにする。 - 学期に1回程度研修伝達講習会を開き、教職員同士で学んだことを共有する。	1－②			

学びが い推進部	I C T教育		・自然体験学習の成果を全児童生徒で共有するとともに、校外へ積極的に発信する体制の構築。	・校外からの配信に必要な機材や技術を揃え、全児童生徒が自然体験学習の様子をリアルタイムで視聴したり、後から見返したりする。 ・学校ホームページを再編成することで、地域のより多くの人に本校の取り組みを公開し、自然体験の幅を広げる。	1－①			
	視 聴 覚		・オンライン授業や、儀式的行事及び式典の配信による機材の整備・点検やI C T教育係との連携・推進。	・I C T教育係と連携し、配信用機材を全教職員で柔軟に運用するための空間整備と活用法の研修を推進する。	1－①②			
	学 習 指 導 課	日常生活の指導	・自立を目指し、児童生徒の実態に応じて身辺処理能力を身につける。	・学習指導課会や係会を通して、各部・各ブロックの実践について情報交換を行い、低学年から中学部まで系統性のある指導に努める。	1－① 2－③			
		遊びの指導	・簡単なきまりやルールを守れる力を身に付けるように、友達とのかかわりを大切にした活動を継続的に実施する。 ・安全・安心に学習活動を行う環境づくりに努める。	・児童同士がより多く関わられるよう、様々な教材教具を準備し、自由遊びの時間や集団遊びの時間を設定する。 ・近隣の公園に赴き、ルールやきまりを体験的に学ぶ機会を設定する。 ・活動場所の整備や道具の点検、確認等を随時行う。 ・トランポリンの使用法や日誌を利用し、トランポリンの有効活用を促すとともに、安全な使用を呼びかける。	1－③ 2－①③ 3－①			
		生活単元学習	・自然体験活動の中核とした授業について検討、実践する。	・自然体験活動を核とした授業について検討し、部主事や部・ブロックの授業担当者と内容や題材について話し合う。 ・実施した授業についての記録を集約し、課題点や学習の系統性を検討する。	1－③ 2－①			
		国語 算数 ・ 数学	・自然体験学習の中核とした授業と国語、算数・数学の教科等横断的な視点による関連付けを検討、実践し、随時記録する。	・自然体験活動に関連づいた授業の記録を確認し、内容や題材について部主事や学習指導課長と熟議する ・地域人材を取り入れた教科との連動を記録し、実践する中で評価し成果のあった点、改善する点等をグループ内で検討する機会を設ける。	1－③			

学びがい推進部	学習指導課	音楽	・教科等横断的な視点による年間単元計画の改善に努め、自然体験学習を中核とした各教科間の関連付けを推進する。	・学習指導課会において、自然体験活動に関連づいた授業づくりの進捗状況や課題を共有し、年間単元計画の継続的な見直しを行う。 ・自然体験活動に関連づいた授業の記録を確認し、内容や題材について部主事や学習指導課長と検討する。	1－③ 2－③			
		体育 保健体育	・児童生徒の体力や運動能力を十分に把握し、指導内容の改善を図りながら、体力及び運動能力の維持向上に努める。	・体力テストや活動の様子から、個々の体力や運動能力を十分に把握し、個別最適な授業づくりを行う。 ・タブレット端末等を活用し、各自活動を振り返り、気づきを引き出しながら、運動能力の向上に努める。	1－① 3－① 4－①			
		図画工作 美術	・個別最適な指導の研究や年間指導記録の作成を実施する。 ・児童生徒作品を各種作品展に応募・展示することで、学校内外に作品を広めることを推進する。	・年間指導記録を作成・参照し、月に一回程度、係内で年間指導記録の進捗状況を確認し、他教科との関連性を図りながら、指導の効果を高める。 ・作品掲示や出展の案を持ち寄り、計画的に校内展示や校外に作品を紹介する。	1－①② ③			
		特別活動	・児童生徒が主体となり、学級活動、集団活動、共同学習等の機会を推進する。	・対面・オンラインを適宜使い分け、部を越えた交流や学習発表を行う。 ・クラスやブロック・部など、様々な集団で活動を行う機会を設ける。	1－③ 2－①② ③			
		作業学習	・個々の役割を果たし、仲間と一緒に取り組む作業活動に努める。 ・地域の財（原料・材料）を活用し、地域の方と一緒に働き、仕事への関心を高める。	・友達や教師も一緒に学び、一緒に働く。個々の能力に応じた作業分担や教材・教具づくりに努める。 ・地域人材を活用し、地域の特色のある原料・材料の情報と、道具の準備から片付け、使い方などを地域の方から学ぶ機会を設ける。	1－① 2－②③ 1－② 2－③			
		職業・家庭	・実践的な活動を通して、家庭生活に関心をもち、自立へ向かう態度を養う。 ・発達段階に合わせた指導の在り方や学習内容について検討する。	・日常生活に即した体験活動や実践の場の充実を図り、家庭や社会の仕事への意識付けを図る。 ・生活年齢や実態に応じた授業を展開したり、反省をもとに見直しを行ったりする。	2－③ 1－①			

学びがい推進部	学習指導課	自立活動	医療等の専門家と連携して得た知見を、自立活動の授業に活かす。	- セラピストによる学校訪問指導、児童生徒が通院する医療機関の相談や見学、社会人講師による授業等を実施し、助言等を参考とした授業づくりに努める。 - 指導経緯や結果等の記録や伝達の方法を見直し、学校全体で共有する。	1－①② ③ 2－②③ 3－①			
		総合的な学習の時間	- 学びの充実のため、地域の力を活かした学習を行う。 - 自ら考え、主体的に取り組む、発信する力を育てる。	- 学びと地域資源をつなげるため、地域資源の活用について、学校運営協議会で協議する。 - 興味関心が高まるよう、地域の特産品等を単元にした学習を展開する。 - 情報収集や発信ツールとして、タブレット端末を活用する。	①－3 ②－1 ②－1 ②－3			
		特別の教科 道徳	- 道徳科における、学習指導記録を月ごとに作成し、次年度の道徳科の指導に活用する。 - 道徳の教科指導におけるポイント等を共有し、教員間で共通理解を図る。	- 各部で、月毎に学習指導記録を作成する。 - 係員が研修に参加し、道徳指導に関する情報を収集・共有し、全体に周知する。	1－①② ③			
働きがい推進部	生徒指導		児童生徒の健全な心の育成と安全・安心な学校生活の向上を図る。	- さわやかマナーアップキャンペーンを通して、あいさつから始まるコミュニケーション能力のきっかけづくりを行う。 - 普段の授業や日常生活の中で、道徳的な思考を投げかける。 - 交通安全教室など、行事を企画・実施することで、自分の命を守るための意識の向上を図る。	2－①③ 3－① 4－①②			
	スクールバス・通学指導		- バス会社との連携を図り、安全な運行に努める。 - 安全・安心な通学のため、スクールバス乗車や自力通学に関する指導を行う。	- スクールバス車内の様子は、担任、係、乗務員、保護者間で情報交換を密に行う。また緊急な事案には迅速に対応し、事故等の未然防止に努める。 - 定期的な添乗や必要に応じた添乗指導を行う。また自力通学に向けた練習を保護者と相談しながら行う。	2－② 2－③			

	進路・キャリア教育	・個別最適な小学部からの系統性のあるキャリア発達に向けた指導に努め、地域に根差した体験的な学習を推進する。	・掲示板等を活用した進路情報の提供を行い、進路について考える機会を設ける。 ・児童生徒の実態や発達段階を踏まえ、身近な地域資源を活用しながら、系統性のある体験学習を計画・実践する。 ・中学部卒業後の進路先である通学区域内や他の特別支援学校、関係機関との連携を図り、計画的な進路支援を行う。	1－①③ 2－①③			
頼りがい推進部	保健・給食	・傷病発生時や食物アレルギー対応における組織的で効率的な対応ができる体制を整備する。	・傷病発生や食物アレルギー対応時に教職員が取る行動をサポートする「救命アクションカード」を作成する。 ・カードを活用した救急法研修を実施し、迅速で適切な対応ができる体制を構築する。	3－②			
	防災・安全	・各災害に応じて避難方法・対応を取れるよう、災害の訓練種類の見直し・改善を行う。 ・危機管理マニュアルに大雨洪水対応の「マイタイムライン」のマニュアルを整備する。	・地震・火災対応の避難訓練を基本に、雷対応、社会状況によりJアラート又は直近で実施していない原子力対応の避難訓練を実施し、各災害に対応する。併せて、各災害の避難方法について安全な避難方法の見直し・改善を図る。 ・大雨洪水対応の安全な避難方法を検討し、マニュアル化する。児童生徒・職員に周知を図ると共に、併せて保護者にも周知し、家庭内での「マイタイムライン」の設定を周知する。	3－①			
	教育支援	・障害のある児童生徒と特別支援教育についての理解啓発を図る。	・研修会等をとおして、教職員の資質向上に努める。 ・地域行事、奉仕活動など、体験的な活動をとおして、地域の人との交流を図る。 ・体験入学等で知的障害特別支援学校の教育について理解を促すとともに、適切な進路決定に努める。	3－③			
	生涯スポーツ推進	・部活動を通して、生涯にわたり体を動かす楽しみや喜びの習慣づくりに努める。	・個別最適な支援方法を検討し、個々の可能性を引き出すよう努める。 ・達成感や喜びを味わうよう、大会に向けての練習を計画し、一人一人の可能性を伸ばす支援に努める。	1－①② 3－① 4－①			

生きがい推進部	文化芸術推進	文化芸術的活動の成果を発信し、障害のある児童生徒への理解や関心を深める。	ナイスハートふれあいフェスティバルに作品を応募にあたっては、関係職員との連携を図りながら進める。	4－②			
	P T A	保護者が主体となって、興味・関心のある事柄をテーマとした活動ができるよう支援する。	- 本部役員、厚生・研修委員、広報委員、親の会役員との連携を図り、円滑に活動する。 - P T A運営委員会や常設委員会に提案、検討された内容を会員間で共有する。 - 担当教員間での情報交換を積極的に行う。	4－③			
小学部	小学部	- 自然体験的な活動を継続的に実践し、教科等横断的な学習を推進する。 - 地域の人と一緒にを行う体験活動を積極的に実施する。 - 安全・安心な活動環境や配慮のもと、体験活動を推進する。 - 外部人材を活用した授業づくりを推進する。	- 季節ごとに自然体験的な活動を企画する。 - 体験活動ごとに記録をとり、部会等で共有する。 - 学校運営協議会委員の情報をもとに、できる活動を企画・実施する。 - 年間を通して安全・安心に活動できる注意点を共有し実践する。 - 社会人講師等の外部人材と適宜、連絡調整を行い、授業を行う。	1－③			
				2－①			
小学部1年	小学部1年	- 児童が安心して学習活動に取り組む環境づくりに努める。 - 児童が周囲の人と触れ合う中で、気持ちを伝えることの大切さや、自身に合った伝え方を知ることができる。	- 個別最適な教材・教具を用いて、楽しみながら学習を進める。 - 児童の「知りたい」「やってみたい」という思いを尊重し、実現できるかを一緒に考えたり、代替え案を提案したりするなど臨機応変に対応する。 - 簡単な仕事を依頼するなど、意図的なかわりを設定し、「ありがとう。」と感謝される機会を設ける。 - 一緒に遊びたい、何かを依頼したいときや、好意を表したいときなどに、どう伝えたらよいかを考えられるよう見守り、難しいときにはヒントや手本を示す。	3－①			
				4－②			
小学部1年	小学部1年	- 児童が安心して学習活動に取り組む環境づくりに努める。 - 児童が周囲の人と触れ合う中で、気持ちを伝えることの大切さや、自身に合った伝え方を知ることができる。	- 個別最適な教材・教具を用いて、楽しみながら学習を進める。 - 児童の「知りたい」「やってみたい」という思いを尊重し、実現できるかを一緒に考えたり、代替え案を提案したりするなど臨機応変に対応する。 - 簡単な仕事を依頼するなど、意図的なかわりを設定し、「ありがとう。」と感謝される機会を設ける。 - 一緒に遊びたい、何かを依頼したいときや、好意を表したいときなどに、どう伝えたらよいかを考えられるよう見守り、難しいときにはヒントや手本を示す。	1－①③			
				2－③			

小学部 2 年	・経験を積み重ね、興味関心の幅を広げるため、体験的な学習を多く取り入れる。 ・係活動や体験活動等を通して、学校内外の多くの人と関わる。	・自然体験、防災学習等を通して、友達や教師と一緒に様々な体験をする機会を設ける。 ・好きなことや得意なことを個別学習や支援に積極的に取り入れ、主体的に活動する。 ・役割や手伝いを通して、クラス以外の人と関わる機会を設ける。	1－①③ 3－① 4－② 2－①②			
小学部 3 年	・児童が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに努める。 ・部の教職員や保護者との情報交換を密に行い、共通理解のもと指導を行う。	・新しい活動や不慣れな活動でも、安心感をもち取り組むように、教師が自ら挑戦する姿を見せたり、一緒に挑戦したりする。 ・健康状態や現在の課題などを共有するため、部の教職員間との話し合いを密に行う。また、連絡帳、電話、個別面談等を通して家庭の様子や保護者の要望を把握し指導・支援を行う。	1－①③ 2－③			
小学部 4 年	・基本的生活習慣を整えて学校生活を送ることができる。 ・学校生活全般、学習・生活に友達と一緒に参加できる。	・他学年の教師や保護者と連携を密にし、今後も進める事柄と改善する事柄を面談や連絡帳等で相談し、共通理解して行うよう努める。 ・教師との情報交換や児童の保護者からの情報をもとに、児童が学習場所で一緒に参加できるように、活動の順番を示したり、安心できる物を試行しながら提示したりして活動に参加できるように努める。	1－① 2－①			
小学部 5 年	・話を最後までしっかりと聞くことができる。 ・友達や教師の助けを求めつつ、自分の仕事を理解して、行うことができる。	・誰がどこで話しているかを確認させながら話すことで、話し相手に注目しながら話を聞くことができるようにする。 ・教師にお願いしたいことなどを自ら話すことができるように、話し方のヒントや方法を示す。 ・個々の実態に合わせて、献立表をマグネット式にしたり、日付の選択肢を2択で提示したりして、仕事ができただけには称賛をする。	1－① 2－②③			

小学部 6 年	・適切に実態を把握し、自分の長所を活かすことができるような環境づくりを行う。 ・保護者との積極的な情報交換を行い、連携を図りながら支援に努める。 ・小学部最高学年として自覚をもち行動する支援を行う。	・行動観察を通して児童の長所を確認し、個別最適な係活動や清掃分担等の役割を割り当てる。 ・連絡帳、電話連絡、個別面談等を通して家庭の様子や児童や保護者の要望を把握し指導に反映する。 ・正しい言葉遣いや挨拶の習得、身辺処理の定着等を目指して、実態に応じた指導を行う。	1－① 1－③ 1－① 3－① 1－① 2－③			
中学部	・地域資源を生かした協働体験活動を推進する。 ・感染症や災害から身を守り、日常生活が快適に過ごせるための健康教育及び防災教育を推進する。 ・一人一人の進路や日常生活に応じ、生活が豊かになるための情報を提供し、共有する。	・学校運営協議会での熟議を学習に取り入れ、地域と連携した自然体験活動の実践を行い、年間指導計画に位置付ける。 ・担任や養護教諭等との連携を密にし、日常的な対応を継続することを基本としながら、個別に配慮した実践を行う。 ・進路指導主事や担任、学校運営協議会と連携し、情報を収集し、発信したり、授業と関連づけたりする。	1－③ 2－① 3－① 4－① 4－②			
中学部 1 年	・自分の意志や考えを周囲に発信し、周囲の人とのつながりを高める。 ・安全で安心した学校生活を送ることができる環境づくりに努める。	・挨拶や返事など、基本的な生活習慣を確立し、よりよい人間関係を築く。 ・様々な場面で、生徒が自分の意志や意見、気持ちを表現できるよう、表現したことについて、肯定的に評価したり教職員が実際の場面を想定したやりとりの手本を示したりする。 ・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう、保護者との積極的な情報共有を行う。 ・生徒下校後、生徒のエピソードについて、教師間で情報共有を行う。	2－②③ 1－① 3－②			

中学部 2 年	・実態に合わせて自分で、自分からできることを増やすために、挑戦する場면을積極的に設ける。 ・安全で安心した学校生活が送れるような環境づくりに努めるとともに、保護者と情報共有を行いながら、協力して生徒の支援を行う。	・生徒の好きなことや興味のあること、身近な題材を中心に活動を設定したり、役割を設けたりすることで、「やってみたい」という気持ちを引き出す。 ・挑戦に対して意欲的になるように、教職員が一緒に取り組んだり、活動を振り返ったりすることができる雰囲気や達成感を共有できる環境づくりを行う。 ・生徒の安全を確保し、突発的な怪我等の未然防止ができるように、教室内や周辺の環境整備、教職員間での情報共有・連携を行う。 ・連絡帳や個別面談等を通して保護者と情報共有を行い、家庭での様子や本人・保護者の要望を把握しながら適切な支援を行う。	1－① 2－②③ 3－②			
中学部 3 年	・地域の人との協働や関わりの中で、人と関わることの大切さを知り、礼儀や協調性を身に付けることができるようにする。 ・目標達成に向けて、苦手なことでも挑戦を継続することで、自分でできることを増やせるようにする。 ・生徒の自己実現に向け、保護者や関係機関と連携を図り、計画的な進路指導を進める。	・外部人材とともに行う活動の充実を図るとともに、学習において生徒のコミュニケーション力の向上を促す。必要に応じて教師が支援をしながら、地域の方とのやりとりの成功体験を積み重ねることができるようにする。 ・挑戦することに対する不安感を減らすために、失敗を認め、一緒に活動を振り返ることができる雰囲気や成功を一緒に喜ぶ環境づくりを行う。 ・進路に向けた課題を明確にし、保護者や必要な関係機関と情報交換をしながら指導・支援にあたる。 ・生徒一人一人の良さや課題の背景把握に努め、保護者との連携を図りながら個別最適な指導場面や内容を工夫し、将来の自立と社会参加に向けた系統的・計画的な指導を行う。	1－① 2－①②			